

租税法系

科目名・単位数	所得税法 2単位	科目分類	租税法系	発展科目
配当年次	1年次・春学期・昼・夜	担当教員	かわね まこと	
履修形態	選択必修		川根 誠	
授業概要	個人は様々な経済活動を行うとともに、消費活動も行っているため、個人の稼得する所得は多彩であり、その所得が課税の対象となるかどうかを律する所得税法も、多彩で奥行きが深い税法である。また近時の情報機器の急速な発展と社会の隅々までの浸透や、「働き方改革」などの影響により、個人の行う経済活動は急速に多様化・複雑化している。このような中であって、常に「所得とは何か」、「課税の公平」「担税力に応じた課税」といった根源的な問題意識を持ちながら、この授業においては所得税における基本原則、所得概念、納税義務者、それぞれに区分された課税所得についてその内容・性格等について究明する。			
到達目標	所得税法の各種原則や区分所得の内容等についての深い理解を得られ、所得税法を自身の考えに基づき的確に解釈、運用できる実践的な能力を身につける。			
授業方法	テキストの講読を中心に授業を進めるが、問題点ごとに積極的に皆さんの見解を問い、ディスカッションを行う。			
事前・事後学習	事前には、テキストの該当箇所の予習を行うこと。(90分) 事後については、毎回の授業の中で関連する判決例を1～2件配布するので、復習してこの内容をきちんと理解すること。(120分)			
成績評価の方法	授業でのディスカッションの内容(20%)、8回にわたり提出いただいたレポート(60%)、期末の簡単な復習テスト(20%)により評価する。			
フィードバックの方法	レポートに対しては、考え方のポイントについて次回の授業で解説し、優れたレポートや問題意識あるレポートを紹介し、内容を批評する。			
履修上の注意	予習は欠かさず、常に問題意識をもって授業に臨むこと。			
授 業 計 画				
第1回	担税力に応じた課税を実現するための、所得税法上の仕組み(1)。			
第2回	担税力に応じた課税を実現するための、所得税法上の仕組み(2)。			
第3回	所得概念(1) (1) 包括的所得概念 (2) フリンジ・ベネフィット			

第4回	所得概念(2) (1) フリンジ・ベネフィット (2) 帰属所得
第5回	所得概念(3) (1) 未実現の利得 (2) 期中純資産増加額をめぐる問題
第6回	所得概念(4) (1) 損害賠償金 (2) 違法な所得
第7回	所得の年度帰属(1) 一権利確定主義
第8回	所得の年度帰属(2) 一管理支配基準
第9回	必要経費(1) (1) 年度帰属 (2) 必要経費の制限規定 (3) 債務確定要件
第10回	必要経費(2) (1) 売上原価と債務確定主義 (2) 減価償却 (3) 違法な支出
第11回	所得の人的帰属(1) (1) 実質所得者課税の原則 (2) 法律的帰属説と経済的帰属説
第12回	所得の人的帰属(2) (1) 事業から得られる所得(家族経営、共同事業) (2) 信託 (3) 組合契約
第13回	租税回避(1) ①意義 ②脱税との違い。ミニテスト
第14回	ミニテストの講評。租税回避(2) 租税回避への対応。
第15回	課税単位と所得控除 (1) 個人単位主義と消費単位主義 (2) 2分2乗方式 (3) 所得控除(人的控除)
テキスト	佐藤英明『スタンダード所得税法(第2版補正版)』弘文堂
参考図書	金子宏ほか『ケースブック租税法(第5巻)』弘文堂